

17 (4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関：山口大学教育学研究科（教職大学院）、NITS 山口大学センター 連携機関：山口県教育委員会、宇部市教育委員会
	事業名：NITS カフェ
	研修等名：NITS・教職大学院コラボ研修「NITS カフェ in UBE」 タイトル：教職員の成長契機を考える！教職員を育てる学校づくりを考える！ 「NITS カフェ in UBE」
	開催日時：令和4年8月27日 12:30～17:30 開催場所：Zoom を活用したオンライン研修として実施 参加人数：62人 同 属性：講師 2、現職教員 27（幼1、小12、中9、高4、特支1）、教委 7（教育長1、学教5、社教1）、大学院生 13（学部卒）、大学教職員 13

内容：

(1) 開会行事

主催者（教職大学院）を代表し、佐々木司専攻長が、NITSと本学教職大学院とのつながり、NITS カフェへの取り組みの歩みと成果、今回の意義と宇部市教委への謝意を盛り込んだ挨拶を行った。その後、引き受け地、宇部市の野口政吾教育長が、教員免許更新制講習終了後においても、「学び続ける教員」として資質能力向上を求め続ける姿勢、自主的自発的学びを、子ども、学校や教育に還元していくことを期待するとの熱い挨拶があった。その後、NITS の紹介、本研修行事の概要説明と諸連絡を行った。



(2) 「カフェ（班別グループワーク：カフェ形式の熟議）」と2つの「講演」

「教育は人なり＝子どもたちにとって最大の教育環境は教職員＝教育の成否は教職員の資質能力とその向上が鍵を握る」を共有し、「山口県教員育成指標」の重要性と不断の資質能力向上を参加者全員で確認した後、10 グループに分かれて「カフェ」を行った。グループ編成は、校種の枠（視点、視野や校種特有の制約等）に縛られることなく、多様、多彩な成長機会を捉えさせたいと考えたこと、昨年度迄の「カフェ」の中で「他校種教員の考えや発想からも学びたい」という声が多かったことから、校種混合のランダム編成とした。

グループワーク「カフェ」では、「私の教職キャリアと成長実感～教職員の成長契機を考える～」を共通テーマとし、①自身の人生・教職「history」を開示し、教職員の成長機会や教職員を伸ばす学校のイメージをつくる（history マップを活用したカフェ）②期待する研修・機会・場の交流をととして教職員が伸びる学校を構想する（くらげマップを活用したカフェ）ワークを行った。



今までの教職生活、学生生活からの豊かな経験、成長実感と出会い（時・場・機会、同僚や先輩、上司や私的人間関係等）をふまえた活発な熟議がブレイクアウトルーム上で展開され大いに盛り上がった。「個人の質向上（スキルとマインド）と環境・集団の活性化（仕組みと取り組み）を連動させようとする学校」、「豊かな同僚性と適切なメンター・メンティー関係がある学校」、「成長のチャンスや失敗を上手くフォローできる関係性がある学校」等を「めざす学校像」とし、「良きモデル像の存在とキャリアデザイン」、「次のフェーズを意識した目標設定と日々のマネジメント」、「同僚教職員との協働と Learning by Teaching」、「マインドの共有と仕組みの確立」等を「教職員が伸びる学校に必要なこと」と捉える意見が多く見られた。そのためにも、「自らが周囲に活力と元気を与える火付け役となり、学校全体で成長しようとする教育風土、教育文化を創ってきたい」、「自分たちの世代から若手世代を巻き込み、勢いを付けていくことから始めたい」等の発言や意見が活発に挙がり、大変勢いのつく「カフェ（ワーク）」となった。

後半は、「カフェ」にも参加・助言をして頂いた二人の講師による、ワーク内容も取り込んだ講演を行った。

広島県立呉三津田高等学校の山田哲也校長から、「マネジメントの役割について～これからの社会の変え方を一緒に探しに行こう～」として、教師のやり甲斐、令和の日本型学校教育の構築とエージェンシー、教育と社会に見られる構造的断絶、社会の小舟化と学校教育の意義、マネジメントと組織文化の形成方途等に関する講演があった。現代社会や学校教育を取り巻く環境分析をととした学校教育の方向性、改革に向けての教員や教職員集団の自身の意識改革を求めた内容として、参加者に大きな刺激となった。

北海道小樽市立朝里中学校の森万喜子校長からは、「教員の学び、育ちを支える学校づくり、学校改革」として、子どもを主語に語りあえ子どもも教職員も成長できる学校づくり、心理的安全性、情報開示と共有、放牧学校に象徴される任せるマネジメント、若手集団の形成と変革者のあり方等を具体的に伝えながら、参加者の成長と学校改善・改革へのムーブメントが期待され、参加者が元気になる講義であった。今回は「カフェ」と2本の講演という欲張った内容ではあったが、参加者全員の貴重な研修機会となった。



(3) 閉会行事

最後に、山口県教育庁教職員課の武居輝記管理主事が全体を通した「講評」と参加者への期待を語り、NITS 山口大学センターの和泉研二センター長が謝辞および閉会挨拶を行った。

成果：

参加者の学び（成果）は「内容」で概括したが、ここでは参加者の「振り返りシート」から一部を紹介する。

(1) 「カフェ」での学び

- ・ 振り返ってみると自分の成長ターニングポイントは、尊敬する先輩教員や素直で一生懸命な子どもたち、その保護者の方々との出会いでした。そして、今回の振り返りで驚いたことは、ターニングポイントとなった先輩教員のその時の年齢を今の私が越えていること。私が先輩教員の影響を多分に受けたように私はだれかにより影響を与える存在になっているだろうか、これまでを振り返るとともに今の自分を振り返ることができました。カフェでの情報共有では「自分もそうだった」と思える共通のタイミングがあり、大変盛り上がりました。2 学期からのエネルギー補充がしっかりできた「NITS カフェ」に感謝です。（中学校教員）
- ・ 今回の班別ワークでは「事前課題」を元に教職員が伸びる学校について熟議を行った。私の班では、ストマス、小学校、中学校、高等学校、市教委、大学教員とバランスが取れたグループで、それぞれの先生方のターニングポイントやエピソードを拝聴することができて有意義であった。グループのまとめを「様々な校務分掌を経験すること」「学校外の人や考えからの学びを取り入れること」とし、そのための具体的方策として「複数の校務分掌を担当」「若手とベテランでペアを組む」などが挙げられた。実行したいワクワクするアイデアも多くあり、とても有意義な「カフェ」となった。（中学校教員）

(2) 「講演」での学び

- ・ 私たち自身が成長する為にも、俯瞰する範囲をより広げて学校を見ることの意義を学びました。これ迄は、短期的な視点かつ限定された範囲で教育活動を捉えていましたが、長期的な視点かつ視野を広げることの重要性を認識することができました。学校運営や地域社会、経済活動を結びつける視点を持つことで、求められる資質能力の背景も理解することができました。（小学校教員）
- ・ 教務主任をしていた時、同僚から「先生を見ていたらすごく大変そうだから自分には無理」と言われ反省したことを思い出した。森校長先生の学校では「主任をやってみよう」「学校に関わる仕事をしてみたい」「管理職になりたい」という教員が増えているとのこと。私自身、森校長先生のお話を聞きながら「この校長先生と働いてみたい！」と強く感じた。「人材育成」として何か手を打つことだけではなく、自分自身が「この人みたいな働き方をしてみたい！」と思われるような素敵なモデルになることめざしたい。（小学校教員）
- ・ 教育は何のために、誰のためにを根本的に押さえてないと自分のやっていることの是非を問えないと思いました。経験値が上がり、ベテランになればなるほどフラットに人と付き合うように心掛け、実践しないと本当の意味での問題に対応でき、乗り越えられる教員集団には成長しないのだとも。心理的安定を広げていくには、リーダーや管理職が率先して行うことが望ましいが、難しければ中堅教員からやってみるべきと元氣も出ました。（特別支援学校教員）



アイデアや工夫したこと：

- (1) 「カフェ」形式で行ったワークショップでは、本学が開発し 16 年の経験を有する「ちゃぶ台方式」= カフェ形式のノウハウやワークツールを活かすよう努めた。参加者の階層、所属、経験年数等による「上下」「一方的」関係を防ぎ、立場、経験や校種を乗り越えて協働的雰囲気の中で協議や交流が進むよう配意した。また、ワーク内容に応じた開示・思考ツールの導入に配意し、参加者各個が自身の教職歴や成長契機の開示や学校イメージ、構成要素等の整理・発表がしやすいように配意した。
- (2) 「講演」は、前向きで改革的な学校経営、人材育成に定評があり、広域で活躍中の講師を招聘することにより、参加者の研修意欲を高めるとともに、ミドル・ヤングリーダーとしての視野拡大ができるよう配意した。
- (3) 結果的に新型コロナウイルス感染拡大によりオンライン研修となったが、県内公開講座として行った。宇部市や山陽小野田市からも参加者があり、地域の教員研修、ミドル・ヤングリーダー養成に貢献できた。また、オンライン研修のあり方検討も進み、今後の事業拡散に向けた貴重な経験となった。